

西暦 2023 年 6 月 1 日

環境マネジメント学科 17 期生および産業衛生科学科 1, 2 期生の皆様へ

本学作業環境計測制御学講座では、以下の研究を実施する予定でおります。この研究の一部は皆様が 2 年次に受講した「分析化学実験」の際に実施したばく露濃度測定結果を利用し実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象者お一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名 化学物質のばく露評価手法の比較・検証に関する基礎的検討
2. 研究期間 2023 年 6 月 ～ 2026 年 5 月
3. 研究機関 産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座
4. 研究責任者 作業環境計測制御学 助教 山本 忍

5. 研究の目的と意義

2022 年 5 月に労働安全衛生規則等の一部を改正する省令が施行され、化学物質のリスクアセスメントを基軸とした自律的な化学物質管理が導入されました。化学物質のリスクアセスメントは「有害性評価」と「ばく露評価」から「リスク評価」を行い、リスク低減対策の検討を行うことを言い、「ばく露評価」には個人ばく露濃度測定（経気道吸収量の測定、皮膚吸収量の測定等）、環境濃度測定等の実測によるものや数理モデルを用いたばく露濃度推定があります。しかしながら、これら各種のばく露評価法の比較や特徴を示した報告は少なく、リスクアセスメントに不慣れな中小企業などはこれら各評価法の違いや特徴を理解し選択することが難しいと考えられます。したがって、「化学物質のばく露評価手法の比較・検証に関する基礎的検討」という研究を計画しました。本研究の成果により、化学物質のリスクアセスメントを実施する事業者が適切なばく露評価法を選択することに貢献できると考えています。

6. 研究の方法（利用する試料・情報の項目を記載してください。）

本研究の一部は、2020 年度から 2022 年度に実施したクロロホルムを対象としたばく露濃度測定の実験データを用います。これらのデータを基に各ばく露評価法の比較などを行います。

7. 個人情報の取り扱い（保管と廃棄に関する事項及び利用の拒否の申し出があった場合の対応についてもご記入ください。）

個人ばく露濃度データは、対象者が特定できないように、研究責任者が個人を識別することができる記述を削除または当該個人と関わりのない記述などに置き換えるなど安全管理措置を行った上で匿名化（対応表あり）します。この研究終了後、あなたからいただいた個人情報は、5年間（もしくは当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年間）保管したのち、研究責任者の管理の下、匿名化を確認の後、廃棄いたします。また、本研究への参加の拒否を申し出られた場合には、その時点で同様の方法で個人情報を廃棄します。

8. 問い合わせ先

産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学 助教 山本忍
電話 093-603-1611（内線 4785）

9. その他

研究参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。本研究は、産業医科大学利益相反委員会の条件付き承認を得ており、付帯条件に基づき公正性を保ちます。